

## 第10回国際サゴヤシシンポジウムにおける ビジネス・ミーティング

豊田由貴夫

立教大学観光学部 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

インドネシア、ボゴールで行われた第10回国際サゴシンポジウムの初日10月29日にビジネス・ミーティングがあり、インドネシア、マレーシア、フィリピン、日本の各国の代表関係者が集まった。日本からは岡崎正規氏、山本由徳氏、江原宏氏、濱田龍之介氏と豊田由貴夫が参加した。

会議では以下の議題が話し合われた。

- 1) 今後の国際シンポジウムの開催予定
- 2) サゴ研究の国際的な発表の場について

### 1) 今後の国際シンポジウムの開催予定

まず、今後の国際シンポジウムの開催予定が話し合われた。長期的な視点から、次回だけでなくその後の予定も決めておくべきだとの意見が出て、議論の結果、以下のように決定した。

- 2013年 インドネシア、パプア州
- 2015年 日本
- 2017年 マレーシア

### 2) サゴ研究の国際的な発表の場について

次に、サゴ研究の国際的な発表の場について議論された。マレーシアを中心にAsian Sago Associationの活動計画が報告され、サゴ研究の発表の場として、国際的なジャーナルを作ろうとしている、という話が紹介された。これに対して日本側からサゴヤシ学会についての説明がなされ、既にジャーナルを出している、ということが紹介された。そのような雑誌が既にあるのならば、新たに雑誌を発行するのは難しいので、それを利用することが望ましいであろう、ということになった。

これについてさらに議論がなされ、以下のような結論を得た。

雑誌Sago Palmを国際的な学会誌にするために、英文誌にすることが望まれる。

雑誌Sago Palmを国際的な学会誌にするために、日本人だけでなく外国人の編集委員を加えることが望まれる。

第10回国際サゴヤシシンポジウムで発表された論文については、Sago Palmに掲載されることが望ましいが、その審査は編集委員会で行う。

### サゴヤシ学会としての対応

以上のようなビジネス・ミーティングの結果を受けて、シンポジウム出席者の間で非公式に意見交換を行った。それらの意見交換も踏まえると、学会としては以下のような対応が必要と考えられる。

第12回国際サゴヤシシンポジウム（2015年開催）について、準備を行うこと

SAGO PALMの体裁変更について議論すること

1については、具体的には、開催場所、実行委員、開催経費、エクスカージョンの場所などを決める必要があるが、当面は、実質的な議論をする実行委員会の結成が必要と考えられる。

2については、英文誌の体裁をとることが望まれているが、SAGO PALMには、会員の大多数である日本人会員を対象とした情報伝達の役割もあるため、何らかの形で日本語の部分を残すべきだという意見もある。ビジネス・ミーティングでは、雑誌の一部（後半）が日本語であってもかまわないだろう、という意見もあり、日本語の部分を後半に集めて独立させるなどの対応も考えられる。いずれにしても、体裁変更についての早急な議論が望まれる。外国人の編集委員については、東南アジアばかりでなく、欧米やオーストラリアの研究者を入れることも考えられる。

## 第2回ASEANサゴヤシシンポジウム (2nd ASEAN Sago Symposium 2012 — Advances in Sago Research and Development —)

---

日 時：2012年10月29日～31日

場 所：DeTAR PUTRA, UNIVERSITI MALAYSIA SARAWAK

縮 切：Abstract (300語以内) 2012年8月31日

Extended Abstract (2～4ページ) 2012年9月15日

登録費：250 USドル

詳 細：<http://sagosym2012.blogspot.com>

## 第11回国際サゴヤシシンポジウム

---

日 時：2013年10月ないし11月

場 所：ソロン・パプア州・インドネシア (Sorong, Papua State, Indonesia)